

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100787
法人名	医療法人社団 萩野医院
事業所名	グループホームやまだ
所在地	富山県富山市山田沼又88
自己評価作成日	令和3年7月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は法人母体である萩野医院と24時間の医療連携をとっており、訪問診療や緊急時の往診が受けられるため、身体機能の低下や認知症の重度化が進んでも安心して過ごせるように支援出来ています。加えて、本人、家族の希望に応じて看取りを行っており、その人らしく過ごしていただけるよう萩野医院を中心とした多職種連携の体制を整えています。今年は「多くのことに気づく視点を持ち、皆さんの笑顔を大切にします」を事業所目標とし、9名の利用者様一人ひとりを大切に思い、気づきを大切にサービスに努めています。そして、ご家族とも良好な関係を築けるよう丁寧な対応をし信頼関係を築くよう努めています。当事業所は山間の自然豊かな穏やかな環境の中にあり、窓からは四季を感じられる景色をいつでも眺められることができ、保育園や、消防訓練など地区の方々との交流も定着しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は山間の自然豊かで穏やかな環境の中にあり、窓からは四季を感じられる景色をいつでも眺めることができ、保育園や、消防訓練など地区の方々との交流も活発に行われている。また、法人母体である萩野医院と24時間の医療連携をとっており、訪問診療や緊急時の往診が受けられ、身体機能の低下や認知症の重度化が進んでも安心して過ごせるよう支援体制が取れている。本人、家族の希望に応じその人らしく過ごしていただけるよう多職種連携の体制を整えて看取りケアにも力を入れている。さらに、働く職員間の風通しもよく、困ったことを相談し、一緒に解決できるような支援体制が取られ働きやすい環境づくりを行っている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度はじめに、理念「ゆっくり、たのしく、和やかに」を基に事業所目標を立て、事業所全体で目標を意識した支援に繋がっています。今年度の事業所目標は職員全体で話し合い、「多くのことに気づく視点を持ち、皆さんの笑顔を大切にします」としました。	法人目標を念頭に置き、各事業所ごとに職員全員で話し合い、年度末に事業所目標を決定、毎朝の引継ぎの時に職員全員で唱和し、理念、事業所目標の共有化を図り、日々のケアの実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育園・小学校との交流を行い、地域の方との信頼関係を築き、防災訓練など呼び掛けて参加して頂くなど積極的に地域とのつながりに取り組んでいます。	コロナ禍では実践できていないが、地域にある保育園に年2回出かけ歌や踊り、人形劇等の鑑賞などに参加していた。現在は、利用者が作成したゴミ箱や塗り絵などを届け、園児からお手紙を頂くなどの交流活動は継続している。また、地域の祭りに参加し、獅子舞を楽しむ機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	山田地域の高齢化は、かなり進んでいるため、家族交流会に地域の方を招いて、施設の案内や認知症対応を生活の中から学んで頂き、高齢者の方に今後役立てて頂けるよう取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、地域包括支援センター職員、市職員、地域代表、有識者の意見や提案を頂き、活発に意見交換を行い、サービスの向上に活かしています。	コロナ禍にて会議の開催が困難な状況ではあるが、書面での報告を行い、今年度は法人全体で1回開催した。地域包括支援センター職員や市役所の職員、地域の代表者など参加。運営に関しての話し合いで、コロナの影響で「何ができて何ができないのか」ということを一緒に考えながら相互の意見交換等を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一回、介護相談員に来ていただき、利用者への対応方法について相談や助言をもらい、それを職員全体で共有して支援に繋がっています。	コロナ禍前は、2か月に1度介護相談員が来て、利用者とのふれあい、話を傾聴し、相談や助言をフィードバックし、職員へ情報共有して支援に繋がっていた。また、市役所や地域包括支援センターとは、利用者の経済的困窮に対し相談を行い助言のもと解決に繋げる等緊密な連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度拘束をせずにケアを継続していくために、職員全体で話し合いを行い、取り組んでいます。利用者へ負担がかからないよう、ベッド柵等で動きをとめるのではなく、出来るだけ早く対応できるように、センサーマットや靴に鈴を付ける等の対応策を講じています。	3か月に1回身体拘束と虐待を合わせながら研修会等を開催している。また、身体拘束指針をもとに、入居時や必要性に迫られたとき利用者に説明し、同意を得ている。年1回身体拘束についての研修会を開催し、身体拘束やスピーチロックなどについて職員全員へ周知、日々のケアに繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、高齢者虐待防止法の理解を徹底し、職員全員で虐待について話し合い、個人の尊厳の保持について学ぶ機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がおられます。後見人には常に利用者様の情報を報告し、問題点の提供や必要物品の手配等利用者様の生活に支障がないように友好的な関係を保っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族に分かりにくいところはないか確認しながら、又、その他に対しても不安なところがないか聞き、納得して施設での生活を始めてもらえるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回の家族アンケートに協力して頂き、問題点があれば職員カンファレンスで話し合い改善策を立てている。又、面会に来られた際や電話連絡により、ご意見や要望があれば改善するように取り組んでいます。そして職員全員で共有し、サービスの改善に繋げています。	コロナ禍前には年1回家族交流会を開催し満足度アンケートを実施。その結果は家族や職員間でも情報共有を図り、いただいた意見、要望等は運営に活かしている。また、日々のケアの中で利用者の思いを聞き取り、サービスに反映している。面会は直接会うことが難しい状況であるが、各部屋の窓越しで対面している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスには全職員が参加し、どんなことでも気づいた事や改善点を話し合い、困ったことがなくなるよう対応しています。職員の提案を常に受け入れ反映できるよう取り組んでいます。	事業所内で気づいたことや要望、意見は、すぐに管理者に相談できる体制が整っており、風通しの良い関係が築かれている。月1回職員会議を開催し、職員全員が参加している。また、職員全員に毎年自己評価を行い、集約し、その結果を現場へフィードバックすることで、運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は昨年の実践状況を参考にして、個々の実績や努力、勤務状況を把握し、人事考課をしています。それが給与や賞与に反映されており、職員がやりがいを持って業務に従事出来るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの質の向上を目指し年間16回の事業所研修に取り組んでいます。昨年度はコロナ禍にも関わらず、講師をお招きして、施設で実際に起きている問題点を職員がお聞きする研修を通じて、対応策を講じています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾・婦中地域包括支援センター内の介護サービス施設で年1回交流会を持つ機会があり、そこに参加することで同業者との交流機会をつくるように努めています。また外部研修に参加した際には、積極的に他施設職員との交流を図り情報交換をして、サービスの質向上につながるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人はサービス開始にあたり、不安を抱えていることが多く、初回の面談では、いかに本人が安心して話をしたり、聞いてくれるかを意識して行っている。初めは、家に帰りたいと訴えられる方も多く、不安を感じておられ、安心して過ごせるように話しかけ、職員が身近な存在になれるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談においては、事業所目標等を中心として、入居者さんに対しての職員の対応を丁寧に説明するとともに、言葉遣いや身だしなみ、表情、話す速度、話をする姿勢等を意識したうえで関係性作りに気を配っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談やアセスメントを行う中で、本人及び家族等が何を必要としているかを判断し、課題の抽出や優先順位をつけ、その中から真のニーズの見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を介護をする人として接するのではなく、一人の個人として尊重し、本人の持てる能力をサポートし、引き出せるよう援助を行っています。また、職員が入居者から、昔の生活の様子や戦争体験の話を聞かせてもらったり、おやつを作る際には、本来の柏餅の焼き方、包み方の指導を受けたりすることもありました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も本人の少しの変化や状況を報告し、職員が本人とご家族との懸け橋となるように支援者としてサービスすることを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、施設や本人に友人等から電話がかかってきたり、面会にいらっしゃいます。また、散歩の際はパークゴルフにきている地域住民から「○○さんじゃないがけ！元気にしとったがけ？」などと声がかかり談笑する場面も見受けられます。	近隣にパークゴルフ場があり、散歩の際はパークゴルフにきている地域住民から気軽に声をかけて頂くこともある。また、希望があれば近隣へドライブに出かけるなど柔軟な対応を行い、馴染みの場所や人との関係が途切れないような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が1つの大きな家族のような関係になっており、お互いを気遣いあう場面が多く見られます。入居者より、ケアマネや看護師に「あの人、具合悪そうやぜ？」などと教えてくれることもあります。そのことより、気の合う同士が同じソファに座って、くつろいで過ごしておられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族から手紙を送ってこられたり、電話を頂いたり、家族の本人への思いを改めて共有、共感しています。また、自身や別家族の相談を受ける事もあり、次へのサポートの橋渡しになっていることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状況をセンター方式の24時間シートを活用し、日常の関わりの中で、言葉や表情、仕草から、本人の望む生活をイメージし、聞き取りを行い、同意を得たうえで介護支援計画書に反映させています。	日々の関わりの中で利用者の発した言葉や行動を24時間シートに記載している。利用者の思いは職員間で情報共有・話し合い、必要に応じて支援方法の見直しやケアの実践に繋げている。意思の疎通困難な利用者に対し、家族より情報を集めたり、本人の仕草や態度を基に、月1回の職員会議にて話し合いを行い、利用者本位のケアの実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の出来る事、したい事を理解できる様、表情や話しかけ、寄り添った介護により、笑顔を引き出せる様な対応を心掛けています。 部屋に写真を飾ったり、自分で書いた塗り絵などを貼って落ち着いた雰囲気でも過ごしたりして頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調管理を行い、レクリエーションや入浴時に状態を把握する様努めています。 バイタルチェックや水分摂取、排泄状況などを確認すると共に、簡単な運動を行い、体力の維持に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時など、職員全員で話し合う機会を設け、一人ひとりに合わせて趣味や嗜好、安心して過ごしていただくためのアイデアや道具について話し合っています。ケアマネージャーが中心となり、必要に応じ計画の見直しも行っています。	ケアプランの作成前に、ケアマネージャーが中心になり24時間シートの記載内容の情報を集約。職員会議にて、状態に即した課題について話し合い、プランに反映している。プランの見直しは3ヶ月ごとに行われるが、利用者の状態の変化がある場合は意向に沿いながらプランの変更を行い、実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中での気づきを大切に、その情報を職員全体で共有して話し合う事で、その方にあったケアを実施できる様に心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との連絡をこまめに行い、家族の意向や要望に対して柔軟に対応しています。 又、こちらからの現在必要な物品、困っていることについてもご家族と相談しながら対応しています。特に本人の思いを大切に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の横にはパークゴルフ場があり、たくさんの方の利用者が訪れています。散歩に出た時には皆さんとの笑顔での交流があり、利用者の方も八尾・婦中・山田出身の方が多いことから顔見知りの方との会話もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	母体である萩野医院が主治医であることから週1回往診があり、利用者の健康維持に努めています。状態の急変が見られた際には、いつでも連携が取れる24時間体制となっており、適切な医療を受けられるよう支援しています。	母体である萩野医院から週1回の往診、毎日利用者の体調やバイタルなどを報告し日頃より連携を密にしている。夜間でも体調に変化がある場合は、24時間オンコールにて主治医と繋がり支援を受けている。また、内科以外の診療が必要な時は、紹介状の記載を依頼し、家族や職員が付き添い適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎日ご利用者のバイタル等健康状態の確認を、母体である医院に報告し看護と介護の医療連携を行なっています。体調がおかしいと感じた時にすぐに適切な指示を受けることが出来る体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族やMSWと連絡を取り合い、必要時、状態確認のため、病院を訪問し、直接本人の状態を確認しています。また、法人の連携室に相談し、ゲートでの受け入れについて検討するなど法人内の施設とも協力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの状態となった時には主治医から家族に状況を説明し、できる限り本人の思いを叶えられる様、また、苦痛の緩和や精神面のフォローができるようチームで支えています。	利用契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿い、事業所として対応を説明し理解を得ている。重度化した場合は、主治医や家族、本人の意向に添いながら話し合い意思確認を行い、希望されれば看取りケアを行っている。看取りケアを実践するに当たり、主治医とは常に連携し、不安に思う事など相談できる体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員へは緊急時の手順や家族への連絡先を記したマニュアルを作成し、管理者やケアマネ不在時でも確実な対応が行えるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練は年2回、地元消防署と連携して初期消火や避難誘導など、地元住民とも連携して開催しています。土砂災害に対しては「防災マニュアル」を策定し、公的避難所への避難について計画していますが、その訓練はまだ実施していません。また、避難場所を隣のデイサービス施設に検討中です。	災害時に備え備蓄が確保されている。また、年に2回、昼夜の火災想定避難訓練を実施している。地域の方にも参加して頂き、避難経路の確認や消火設備等の取り扱いなど、消防署の指導のもと実効性のある訓練に繋げている。土砂災害の対策は、避難場所へは3.2km離れており、避難途中に4か所の危険地域を通過しなければならず、利用者の身体状況等を勘案すると困難なため、避難せず留まる方向で検討している。	災害発生時の状況に合わせどの時点でどのように対応していくのか、実践に備えた避難行動を確立し、整備されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年一回、プライバシー保護の研修を行い、入浴介助、オムツ交換等、利用者の尊厳を尊重するため、同性介助や時にはスタッフ交代など臨機応変に対応することによって不快な思いをさせない様に言葉かけを行なっています。	尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけや接遇方法を社内研修にて確認・理解し実践に繋げている。日々の会話の中で職員同士で気付いた点を、その都度ミーティング等で話し合ったり、利用者が選択できる声掛け、本人の思いを引き出せるような声掛け、納得できる声掛けの実践を行いケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の介護業務が始まる時から利用者様の何気ない会話や行動を観察し、声かけや手に触れるなどコミュニケーションをとり、本人の希望を確認し、自己決定できる様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースや希望を第一に考え支援しています。起床や朝食の時間を調整したり、就寝もそれぞれのペースを尊重しており、日中も音楽や読書など各自の好みに合わせ穏やかな空間を設けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の希望の服装などを一緒に選んだり、毎朝起床時にホットタオルで顔拭きや整髪など日々清潔しく過ごせる様支援しています。顔や手のマッサージやお化粧を楽しむ行事も計画実践しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに適した食事の提供や、取っ手付きの食器など自分で食べられるよう支援したり本人の好みなどを把握するよう努めています。又、水分量の確保の為、本人の好みの飲料を選んで頂くなどしています。	利用者の状態等に合わせ食器の工夫や形態の工夫を行っている。基本的に副菜は外部より調達するが、主食やおつゆの部分で季節感を出せるよう、炊き込みご飯の具材を考えたり、手作りでおはぎを作ったり、誕生会にロールケーキをデコレーションし、一緒にお祝いするなど出来る範囲内で工夫されている。	食事は利用者にとって楽しみの一つであるため、いろいろな制約がある中でも季節感を味わえるような食事の工夫や、本人の嗜好を取り入れた食事の提供など外食に出掛けなくてもできる楽しみ作りに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが適切な栄養及び水分補給を行える様、職員間で意見交換をして、統一した対応に努めています。食事についてはキザミ食やミキサー食に、水分補給はトロミをつけるなど個人の状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の重要性を理解し各自の口腔状態に応じた対応を心がけています。歯科医師から口腔ケア指導を受けて利用者の力を引き出しながら、口腔内の衛生管理に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、排泄の間隔を記録し、それを基に尿意や便意がわからない方にはその方に合わせて時間誘導を行い、自分で安全に排泄が継続できる様支援しています。	24時間シートで利用者個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況にあった排泄支援を行っている。関わり方や言葉かけなど尊厳を重視し、昼夜問わずトイレでの排泄を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を観察して、牛乳の提供や腹部マッサージを行い、散歩や簡単な運動を継続することで自然排便を促す工夫を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調管理を行うと共に、希望やタイミングに合わせて入浴しています。入浴後に保湿クリームを塗り皮膚の乾燥を防ぐなど、身体の清潔保持するように努めています。	最低週2回を目安としながらも、利用者の要望や体調に合わせ、毎日入浴できる環境は確保されている。歩行状態や体調に合わせ、一般浴、シャワー浴と柔軟に対応し、入浴中は職員とマンツーマンでゆっくり入浴できるような配慮がなされている。入浴後の皮膚の状況に合わせ保湿クリームを塗布するなど個別対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度な運動を継続して行ない、体力の保持に努めています。外に出て外気浴やパークゴルフを見て地域の方との交流をしたり、簡単な運動をする事で夜間はゆっくりと就寝して頂ける様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には日付、名前の確認、排便コントロールを行なっています。特に服薬の間違いのない様、声を出してダブルチェックを行なっており、職員全員でフォローしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんご高齢となり、怪我をするリスクも高くなってきていることから、年々難しくはなっていますがテーブル拭きや片付け、時々外へ散歩に出たり、中庭でパークゴルフなど、出来ることを継続しています。一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画を立て、季節事の花や景色を見に近隣へのドライブに出かけています。現在も外部との接触は困難なため、ご家族との面会も窓越しで行なっていますが、天気の良い日には出来るだけ敷地内の散歩や、車椅子での散歩を行なっています。	年間行事計画に沿って、地域で催されるお祭りや近隣の保育園の行事に参加し交流する機会がある。また、利用者の要望に合わせ、散歩やドライブに出掛ける等日常的な外出の支援も行われている。庭を利用し花火を行うなど外出が制限される中での楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域の特性上お金を使うところが無く家族に管理をして頂いています。中にはお金を持つと安心される方もおり、ご家族と相談し財布を持って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば昔からの友人や家族に電話をしたり面会に来てもらったりして利用者が落ち着いて過ごして頂ける様心掛けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう、季節の花や地元行事のポスター、居室に家族の写真や手紙を貼ったり、本人の塗り絵など自室に飾り、いつでも観て落ち着いて過ごせる様工夫しています。また、玄関ではメダカを飼育しており、餌やりなども行っています。	手造りの装飾が壁に飾られ、外出時、行事ごとの写真が掲示されている。リビングからは、朝顔のグリーンカーテンが見え、自然な風と光を取り込み、季節を感じる演出が施されている。また、食事の支度の音や匂いが感じられるほか、適所にソファやイスが配置され、利用者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。光彩や温度・湿度・におい等にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと一緒に過ごせる様に気の合った利用者さんとソファに座って過ごして頂いたり、テレビを観たり、昔話に花を咲かせて過ごして頂いたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族より、本人の使い慣れた物、自宅で使用していた家具、ぬいぐるみや人形などを置いて落ち着ける環境になる様にしています。今まで過ごしてこられた環境を大切に対応しています。	使い慣れた家具や椅子がその方の導線に合わせ配置され、家族との思い出の写真、作品など、自宅で過ごしているところの生活の継続が実現できるような雰囲気づくりに努めている、利用者個々の要望や思いを組み入れてレイアウトされ、居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下など手すりなどを利用して歩行訓練や日頃散歩をしています。自分で出来るところは自分でしていただき状態を把握し対応しています。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやまだ

作成日：令和 3年 10月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	<ul style="list-style-type: none"> 火災想定避難訓練は年2回、地元消防署と連携して行っている。 土砂災害に対しては「防災マニュアル」を策定し、公的避難所への避難を計画している。但し、その訓練はまだ実施していない。また、避難場所については入居者の安全を期して公的避難所以外も検討中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の状況に合わせどの時点でどのように対応していくのか、実践に備えた避難行動を確立し、必要備蓄品を整備する。 	<ol style="list-style-type: none"> 指定避難所への避難訓練(計画済) <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況が収束した後に地域住民とともに実施する。 非常持出袋の定期点検と補充を実施する。 指定避難所以外の施設への避難計画策定。 <ul style="list-style-type: none"> 接続するデイサービス施設への避難計画の策定 同上受入れ体制構築と備蓄品整備 デイサービス施設への避難は火災想定避難訓練時に実施しているが、土砂災害発生を想定し、現実に即した避難訓練を実施する。 避難先のデイサービス施設での備蓄品は両施設の非常持出用備蓄品及び通常業務に使用する食材や水、燃料、寝具で賄うこととする。 非常用発電機の必要性については今後検討したい。 	12ヶ月
2	40	<p>利用者の状態等に合わせ食器の工夫や形態の工夫を行っている。基本的に副菜は外部より調達するが、主食やおつゆの部分で季節感を出せるよう、炊き込みご飯の具材を考えたり、手作りでおはぎを作ったり、誕生会にロールケーキをデコレーションし、一緒にお祝いするなど出来る範囲内で工夫されている。しかし、本人の嗜好に合ったものを取り入れていなかった。</p>	<p>食事は利用者にとって楽しみの一つであるため、いろいろな制約がある中でも季節感を味わえるような食事の工夫や、本人の嗜好を取り入れた食事の提供など外食に出掛けなくてもできる楽しみ作りを行う。</p>	<p>中庭でのプランターにて利用者とともに家庭野菜を作り、調理して惣菜として味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えばキュウリ、芋類、果物等を作り、簡単な加工にて食材化する(漬物やサラダ、ホットケーキ等)。 作る楽しみ、味わう楽しみを利用者と職員が共有する。 	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。